

平成 2 2 年度一般会計当初予算説明資料

4 款 衛生費

1 項 公衆衛生費

健康政策課 (内線 : 7 2 0 2)

9 目 生活習慣病予防対策費

(単位 : 千円)

| 事業名 | 本年度 | 前年度 | 比較 | 財 源 内 訳 | | | | 備考 |
|---|--|-----|-------|---------|----|-----|------|----|
| | | | | 国庫支出金 | 起債 | その他 | 一般財源 | |
| (新)健口食育プロジェクト事業～目指そう！噛ミング30 (かみんぐサマル) ～ | 3,321 | 0 | 3,321 | 3,321 | | | | |
| トータルコスト | 13,003千円 (前年度 0千円) [正職員 : 1.2人] | | | | | | | |
| 主な業務内容 | 歯科からの食育支援体制の整備、口腔機能評価法及び食べ方支援ヒント集の作成 | | | | | | | |
| 工程表の政策目標(指標) | メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減 (平成 2 0 年度を基準年として、5 年以内に 1 0 %減) | | | | | | | |
| 事業内容の説明 | | | | | | | | |
| <p>1 事業の目的・概要 県民が生涯にわたって安全で快適な食生活を営むために、歯科領域から口腔機能について学ぶ機会を増やし、「食べ方支援」に関わる人材を育成する。(ライフステージ毎、3 コース)</p> <p>2 主な事業内容</p> <p>(1) 健口キッズ支援コース《小児期》(1,995千円) 「上手に噛めない子や食事時間が長い子」等、保育の場において「食べる力」支援が望まれていることから、幼児等の「食べ方」口腔機能調査及び支援ヒント集を作成する。 (各福祉保健局が出向き、保育所・幼稚園 (1 0 か所×3 圏域) において実施)</p> <p>(2) 健口的メタボ予防コース《成人期》(81千円) 食べ過ぎや偏食、運動不足がメタボリックシンドローム (内臓脂肪症候群) の主な原因とされ、「ゆっくりよく噛み、味わって食べる」ことで、早食いを防ぎ、肥満予防に効果があることから、ひとくち 3 0 回以上よく噛むこと (噛ミング 3 0) の効用を普及する。 ○研修会の開催 (2 回/年×3 福祉保健局) ○歯科医師 (1 人) による講話「よく噛むことと肥満予防」 ○歯科衛生士 (局) による実習「咀嚼力判定ガムの活用」 ■対象者 : 産業保健師、看護師、事業主、衛生管理者、8 0 2 0 推進員</p> <p>(3) 食べ方ヒヤリ・ハット防止コース (162千円) 成人と比べ口腔機能の低い小児や高齢者に誤嚥・窒息事故が起きやすく、食べ物による窒息のヒヤリ・ハット事例から学び、窒息事故の防止支援を図る。 ○研修会の開催 (2 回/年×3 福祉保健局) ○歯科医師 (1 人) による講話 (食べ方で変わる「危険」と「効果」) ○救急法指導士 (1 人) による応急手当講習会 ■対象者 : 保育士、幼稚園教諭、介護職員、8 0 2 0 推進員等</p> <p>(4) 検討会、支援ヒント集作成費等 (1,083千円) ○県検討会 (2 回、メンバー案 : 県歯科医師会、県子ども家庭育み協会他 4 団体) ○県域関係者連絡会 (2 回×3 圏域、事業説明、実施方法の検討)</p> <p>3 これまでの取組状況、改善点</p> <p>◆ 8 0 2 0 運動達成のため、歯の喪失原因であるむし歯・歯周病予防対策を推進した結果、むし歯・歯周病は減少してきた。</p> <p>◆ 歯科疾患は改善されたものの、食を通してより健やかな生活を目指す「食育」の土台となる「食べ方」支援と歯科保健の連携は充分でない。 ⇒ 咬合・口腔組織の異常等への対策が必要。《「口腔機能向上」の推進》 【3 歳児の咬合の異常】 11.4% (H20) 【3 歳児の軟組織その他の異常】 29.2% (H20)</p> <p>◆ 食を通して健康寿命を延伸するためには、その基盤となる小児期から高齢期に至るまで食べる器官である口腔の健康と関連させて健康づくりを推進する必要がある。 ⇒ 従来のむし歯予防や歯周病対策に加え、今後の歯科保健対策にかみ合わせや咀嚼力等の口腔機能向上の視点が必要。</p> | | | | | | | | |